

## 2.6 沖縄県教員研修会 即興型英語ディベート研修

一般社団法人パラメンタリーディベート人財育成協会 (PDA)

中川智皓

開催日時：2016年9月30日(金) 14:00-16:30

会場：沖縄県立総合教育センターIT棟 参加者：教員28名(13校)

助成：日本財団

協力：文部科学省「平成28年度総合的な教師向上のための調査研究事業」

平成28年9月30日(金)、沖縄県立総合教育センターIT棟にて「授業でできる!英語ディベート」を主題とした研修が行われました。研修冒頭、伊志嶺指導主事より「今回お集まりいただいた英語科教員は沖縄の曹操たるメンバーが集いました。この場限りでなく、各校で他の先生方にもディベートの素晴らしさを伝えていただきたい。」とのご挨拶がございました。

次に中川よりディベートの概要、ルールについての講義が。学校の授業で導入できるディベートフォーマットの使用について、また、中教審が高校英語で「論理・表現」を新設する、科目再編の方針に伴う学校教育に於けるディベートの有用性を併せて説明しました。

引き続き専門家によるモデルディベートが行われました。論題は「授業中の内職(他の科目を勉強すること)は許されるべき」。スピーチはユーモアもあり先生方は若干緊張がほぐれた様子でした。

その後、早速教員の皆さんには生徒の立場に立ってみて、実際にディベートによるスピーチを体験していただきました。論題は、第1ラウンド「宿題を廃止すべきだ」、第2ラウンド「コンビニエンスストアの深夜営業を禁止すべきだ」でした。

15分の準備時間後、ディベートが開始されました。第1ラウンドでは話の組み立てに戸惑う先生方もいらっしゃいましたが、その後のジャッジによるフィードバックで、ほとんどの先生が要領をつかみ言いたいことを主張できました。和気藹々と2ラウンドの実践が行われました。

(地域柄 かりゆしの涼しい姿でのスピーチが印象的でした)



伊志嶺指導主事よりご挨拶



専門家によるモデルディベート



真剣な面持ちでの相談



スピーチの様子



質疑応答にも即興で対応



議論の後には必ず握手

## 参加者の声（アンケートよりそのまま抜粋）

- 大変勉強になった。フォーマット（流れ）が分かりやすく、授業で取り入れやすいと感じた。  
Thank you very much.（普天間）
- 生徒も教師も自分の言いたいことを主張したり、反対の意見をきき、考えていく力が今こそ求められていると思う。ディベート（PDA）は日本政府が推進していくべきだと心から思います。（宜野湾）
- 自らの英語力でもっと向上させなければいけないとモチベーションが上がったので、とても良かったです。論理的に英語で考える機会が教師には必要だと感じました。とても良い機会でした。（那覇国際）
- 他に類を見ないタイプの研修で、これからの時代に必要な研修だったと思います。これからもがんばりたいと思える内容でした。（球陽）
- 最初はとても緊張して相手の言っていることを理解するのに必死だったが、二回目は少し落ち着いてできました。このように生徒も回をこなせば慣れてくるのでは？と思いました。とても良かったです。（那覇）
- ものすごくストレスフルでしたが、それが良かった。心臓バクバク状態で英語を話すって、、、生徒たちと同じことをさせているんですね。（首里）
- Very interesting, quite challenging & realistic great job.（球陽）
- 教員ですら、学校の授業以外では英語を話す機会がないため、教員が英語を話し、まとめる力が必要になる。（球陽）
- 従来も学び多く、良いのですが、今回の方が負荷を感じ、学ばなければという気持ちにさせてくれます。（首里）。
- 準備型ディベートより、より本来のコミュニケーションの場面に近く、教師としても英語学習の必要性を感じました。（首里）
- 組み立てを意識しながら英語を使うので、日常会話では体験できないスキルを磨くことができると思う。（南風原）
- とても楽しかったです。なかなかディベートはやる機会がないので、もし授業に取り入れるとしたらすごく役立つと思いました。（開邦）
- 体験でき1人1人にフィードバックがあり、学ぶことが多かった。特に自己研鑽へのモチベーションが高まる。（向陽）

---

## 本研修会にて選ばれたベストディベーター

### 第1ラウンド

■■■■先生（普天間高校）

■■■■先生（那覇国際高校）

■■■■先生（宜野湾高校）

■■■■先生（球陽高校）

■■■■先生（沖縄工業高校）

■■■■先生（北山高校）

### 第2ラウンド

■■■■先生（南風原高校）

■■■■先生（那覇国際高校）

■■■■先生（宜野湾高校）

■■■■先生（開邦高校）

■■■■先生（首里高校）

■■■■先生（沖縄工業高校）